

フォルクローレを訪ねて!

日本音楽集団コンサートシリーズNO.38

加藤登紀子+日本音楽集団



楽しい邦楽演奏会

1977・2/13 (日曜日)

虎の門ホール 地下鉄虎の門下車
開場 午後1:30 / 開演 午後2:00

指定席 1,700円 / 自由席 1,200円

なお指定席は、当日列を指定いたします。

■当日託児室を設けませんので、ご家族連でおこしください。



■ゲスト・加藤登紀子 / 指揮・田村拓男 稲田康 / 企画構成
・三橋貴風 / 編曲・角田圭伊悟 ■協賛・雑誌「中南米音楽」
/ 協力・撥楽舎 ポリドール株式会社 ■提供・ルナ楽器 ■
主催・日本音楽集団

チケット取扱い店

■渋谷東急プレイガイド ■新宿チケット ビューロー ■銀座鳩居堂

■お問合わせ、電話予約は日本音楽集団事務所へ TEL.409-5374
〒150 東京都渋谷区神宮前6-16-14

帰ることを夢みて、未知なるものの中を走りゆく…

回帰船/加藤登紀子



電話
旅景色
生まれた街
雨上がり
あなたの行く朝
すれ違う夕暮
向こう岸へ
ちっぽけなブルース
大脱走
土に帰る

●MR 3031 ¥2,500 □CR 2068 ¥2,300

絶賛発売中

●17cmシングル

あなたの行く朝/すれ違う夕暮

●DR 6055 ¥600



ポリドールレコード
発売元/ポリドール株式会社

加藤登紀子と共にfolkloreを訪ねて

日本音楽集団コンサート・シリーズNo.38＝楽しい邦楽演奏会

●1977年2月13日(日) 午後2時開演 ●虎の門ホール

ゲスト：加藤登紀子
司会：青木 誠
指揮：田村拓男・稲田康
編曲：角田圭伊吾
企画・構成：三橋貴風
主催：日本音楽集団

協賛：雑誌「中南米音楽」

協力：揆楽舎・ポリドール株式会社・
関真澄演出事務所

楽器提供：ルナ楽器

収録：FM東京

お客様へお願い

本コンサートはFM東京が会場で収録をいたしますので、(番組「ゴールデン・ライブ・ステージ」一日曜日9:00 PM～9:55 PMで放送予定) 何卒御協力をお願い申し上げます。尚、放送日は後日新聞、雑誌等にてお知らせいたします



日本の伝統音楽を、自由な創作的な発想でやろうとしているグループがあると聞いたのが三年程前「日本音楽集団」はその時から私にとって気になる存在だった。

生まれた時からドレミファで育って来た私らには、日本の伝統音楽はめっぽう難解な世界になってしまっている。多分気づかぬうちに触れてはいるのだろうが、まるでよろい戸のむこうにあるように、縁をとり結ぶ機会を得ぬまま来てしまった。

今回の試みが、一足飛びに道を開いてくれるとは言えないだろうけれど、琵琶や琴と尺八と私のうたとの出逢いがどんなものになるかとても楽しみだ。

これを機会に日本音楽集団の試みに加わりながら日本人にとっての音楽のあり様を見つけていきたいと思う。 (加藤登紀子)

フォルクローレとは

地球の上で、日本から一番遠いところにある南アメリカ大陸——そこにはアルゼンチンやペルー、ボリビアなどの国々があって、とても素朴な人々が住んでいます。

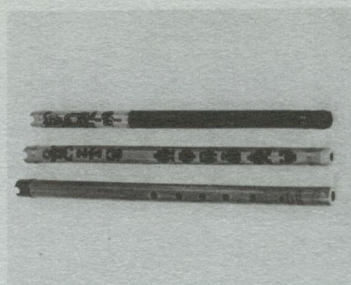
アンデスの山の中で、空気はきれいでも食べるものも不自由な彼らは、その生活の喜び、悲しみ、それらすべてを笛の調べやギターの音色に託して来ました。

フォルクローレの語意は、Folk (人々)、Lore (伝承)。つまり民間伝承された彼らの音楽と考えて良いでしょう。フォルクローレの中で最も私たちに身近に感じられるのは、かつて栄華を誇った、インディオの国、インカ帝国のあったアンデス地方の音楽でしょう。今日でもその末えいたちが、昔ながらの哀愁を帯びた音楽を歌い、踊っているのです。それは、主に東洋的な五音音階からなり、むしろ日本的な感じさえ受けます。

というのは、南米のインディオはもともと私たちと同じ人種で、今から2万年もの昔、まだベーリング海峡が陸つづきだった頃、東アジアのモンゴル族が北からアメリカ大陸を南下したと言われています。インカ帝国は彼らがアンデスの山の高地に都を築いた文化国家の一つで、後にスペインの侵略によって滅ぼされるまで、何百年の間独特な文化圏を創り上げ栄えました。

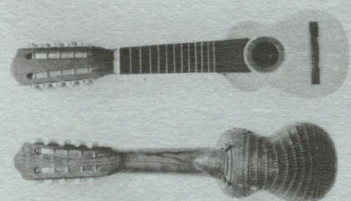
彼らの感覚は旋律の他にも驚くほど私たちと似かよった所があり、言葉の上でも、有名な“チチカカ湖”(父母の意味)のように内容が一致するものも少なくありません。

また楽器に関しても、それらの内のいくつかは我々の使う邦楽器と類似したものがあつたようです。



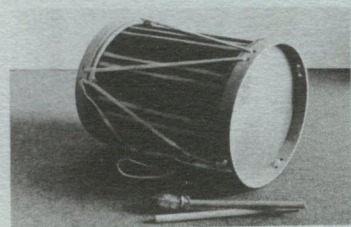
● ケーナ Quena ●

アンデスの尺八といわれるタテ笛。カーニャという篠竹に似た葦で作られています。指孔は普通6孔、尺八というよりむしろ洞簫どうしょうのタイプで、現在の台湾やベトナムの洞簫と全く同形なものには驚かされます。ケーナの歴史は古く紀元前に溯りますが、発生の起源はインド北西部という言い伝えがあり、やはり先祖は尺八と同じものかも知れません。ケーナは昔は葦だけでなく、動物の角や人間の脚の骨などでも作られていたようです。



● チャランゴ Charango ●

アルマジロ（現地名キルキンチュ）の甲羅を共鳴胴にした複弦の小型ギターです。弦は普通は鉄線を使い、複弦5コース（10本）ですが、その金属板の音がマルマジロの甲羅の反響でやわらげられ、澄んだ美しいトーンを生み出します。



● ボンボ Bombo ●

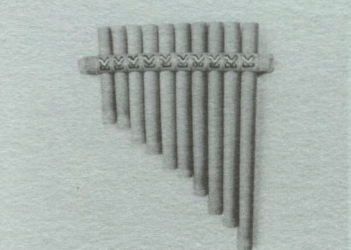
アルゼンチン北西部を中心として使われる太鼓です。一本の丸太をくりぬいて胴にしたもので、両面に山羊のような動物の皮がはってあり、二本のバチでたたきます。この楽器は私たちがいつも使っている桶胴と良く似ています。



● アルパ Harpa ●

インディオが使っている小型ハープの一種で、別名インディアン・ハープとも言われていて、主にバラグアイで使われています。クラシック音楽のハープとは違って、ペダルもなく人間の肩ぐらいの高さで、簡単に一人で持ち運べます。弦の数は36~40本で、全音階に調律されほとんどが手製の素朴な楽器です。この楽器の音色は日本の箏の特に高音域の音色と良く似ているようです。

●写真は日本のアルパ奏者塩満百合子さん



● シクーリ Sicuri ●

別名シークとかアントラとも呼ばれますが、これはいわゆる西洋のパンパイプで、何本かの管を並べて添え木でゆわえてイカダのような形にした楽器です。これは主にベルーやポリピアで使われていますが、日本にも昔、雅楽の楽器の中に簫しょうという似たものがあり、やはりこのシクーリも起源は中国でないかという説もあります。

第 一 部

I. フォルクローレ

1. コンドルは飛んで行く——EL CONDOR PASA (ダニエル・アロミアス・ロブレス作)
2. 風とケーナのロマンス——ROMANCE DE VIENTO Y QUENA (ホセ・ラミレス・トーレス作)
3. あなたの影になりたい——QUERO SER TU SOMBRA (ベネズエラ民謡)
4. インカの哀歌——PLEGARIA DEL INCA (ウニャ・ラモス作)
5. ヤービの風——VIENTO DE YAVI (ホヤ・ルイス・カスティニェーラ・デ・ディオス作)

〔尺八とケーナ〕三橋貴風・福田輝久 〔ソプラノ箏〕吉村七重 〔アルト箏〕飯吉圭子
〔箏〕花房はるえ 〔ベース箏〕池上早苗 〔打楽器〕黒坂昇

II. 加藤登紀子と共に

1. 琵琶湖周航の歌 作詞者不詳・小口太郎作曲
2. ひとり寝の子守唄 加藤登紀子作詞・作曲
3. 黒の舟唄 能吉利人作詞・桜井順作曲
4. 私は修羅 加藤登紀子作詞・作曲
5. あなたの行く朝 加藤登紀子作詞・作曲

〔篠笛〕鯉沼広行 〔尺八〕田嶋直士・藤崎重康 〔薩摩琵琶〕半田綾子・田中之雄 〔ソプラノ箏〕砂崎知子
〔箏Ⅰ〕池上早苗 〔箏Ⅱ〕花房はるえ 〔ベース箏〕飯吉圭子 〔ベース三絃〕長谷川久子
〔胡弓〕畦地慶司 〔打楽器〕高橋明邦・堅田啓輝 〔指揮〕稲田康

—— 休 憩 (10分間) ——

第 二 部

III. フォルクローレ

1. カスカーダ(滝)——CASCADA (ディグノ・ガルシア作)
2. 鐘つき鳥——PĀJAARO CAMPNA (バラグァイ民謡)
3. 聖 女——LA DIVINA (ディグノ・ガルシア作)
4. 限りなき夢——QUISIERA SER (マリオ・クラベル作)
5. 異邦人——GRINGA (パトリシオ・カスティージョ作)
6. 山の花——FLOR DE LA LANA (ケロ・パラシオス作)

IV. 再び加藤登紀子さんを迎えて

1. 滅びゆくインディオの哀歌——CANCION DEL DERRUMBE INDIO (イラマイン作)
2. 灰色の瞳——AQUELLOS OJOS GRISOS (ウニャ・ラモス作)
3. コンドルは飛んで行く——EL CONDOR PASA (ダニエル・アロミアス・ロブレス作)
4. 花祭り——EL HUMAHUAQUEÑO (エドモンド・サルディバル作)

〔篠笛〕望月太八 〔尺八とケーナ〕宮田耕八朗・坂田誠山・三橋貴風 〔ベース三絃〕杉浦弘和
〔筑前琵琶〕山田美喜子・田原順子 〔ソプラノ箏〕砂崎知子・花房はるえ
〔アルト箏〕吉村七重・玉置清美 〔箏〕池上早苗・小室圭子 〔ベース箏〕飯吉圭子
〔打楽器〕尾崎太一(Ⅲ, Ⅳ)・高橋明邦(Ⅲ)・堅田啓輝(Ⅳ)・黒坂昇(Ⅳ) 〔指揮〕田村拓男

フォルクローレの主な曲目の解説

●**コンドルは飛んで行く**● アメリカのフォーク・デュエット，“サイモンとガーファンクル”によってとり上げられたこの曲は、もとはペルーの民謡曲で、インカ時代から伝わるヤラビー（悲しみの歌）という音楽の形式により作られています。

曲は、アンデスの空を飛ぶコンドルの雄大な姿をえがいたもので、インディオの伝説では、スペイン人に殺されたインカの皇帝の魂がコンドルとなって甦ったと伝えられ、この鳥は種族の象徴とされています。

●**風とケーナのロマンス**● ボリビア出身で、現在ではアルゼンチンで活躍しているギタリスト、ホセ・ラミレス・トーレスの作品です。静かな歌曲調に始まり、軽やかなテンポのタキラリ、速いワイノ舞曲、と三段構えの作りで、今日のフォルクローレのスタンダード曲として愛されています。

●**カスターダ**● 題名は「滝」の意味で、パラグアイのアルピニスト、ディグノ・ガルシアにより作曲されました。この曲の滝とは彼の故郷の町を流れる小川でもあり、または、ブラジルとアルゼンチン国境にまたがる世界最大のイグアスの滝とも言われています。曲の形式は二拍子と三拍子の複合したリズムからなる、パラグアイの郷土舞曲ガローパで書かれています。

●**鐘つき鳥**● 曲名はアルゼンチンやパラグアイに棲む、鐘をつくような鳴き声を出す小さな鳥の名前です。インディオの伝説によると、スペインの植民時代に、この地にスペイン人が建てたカソリックの教会を、改宗を拒むインディオたちがぐずしてしまったところ、その鐘が鳴り止まず、人々を驚かせました。怒ったインディオの神が鐘を白い小鳥の姿に変えましたが、小鳥は今だに鐘をつくような鳴き声で、インディオたちに警告を与えている——ということです。

●**滅びゆくインディオの哀歌**● チャランゴの調べによせて、征服された民族の悲しみが唄われた曲です。歌詞は……“私の心のすぐ側にあるチャランゴよ、私が失った富を嘆くのを助けておくれ。—インディオたちは山を越えてやって来る。皆笛や太鼓やチャランゴで歌いながらやって来る。この石の世界に情熱もなく、希望もなく、滅びゆく民族の感情がよみがえる—。太陽の帝国を白人が私から奪ってしまった。私の民族は他の文明に敗れて死んで行く。”

●**灰色の瞳**● アルゼンチンに生まれたケーナの達人、ウニャ・ラモスの作曲です。曲は灰色の瞳を持つバリのある女性に捧げられたといわれます。日本では今日のゲスト加藤登紀子の作詞で長谷川きよしなども唄い大ヒットしたことは言うまでもありません。

●**花祭り**● アルゼンチンのギタリスト、エドムンド・サルディバルが作詞作曲し、今から25年も前に世界的に大ヒットしました。原曲は「ウマウアカの人」という意味で、アルゼンチン北部のウマウアカ溪谷の年に一度のカーニバルの楽しさを、その時のフォーク・ダンスのリズムカルナバリートにのせて作ったものです。

ケーナと伝説

半世紀ほど昔のこと、ペルーのリマにインディオとスペインとの混血の一人の青年が住んでいました。彼は聖職につく勉強をしていましたが、とあるスペイン貴族の娘と恋に落ち、どうにも思い切れなくなったのです。当時のしきたりではその様な結婚は許されるはずがありません。

二人はある日、手に手をとって遠い山の中へ逃げ、草ぶきの小屋を作って住むようになりました。二人はしばらく幸せでしたが、その生活は長くは続きませんでした。ついある時病魔が娘を襲い、娘は死にました。

彼はしかし彼女の死が信じられなく、娘をいつもの様に石の腰掛けに座らせ、命の甦る日を毎日待ち続けました。けれど……その日は来ませんでした。娘の体はいつしか白く光る骨ばかりになっていました。とうとう彼は泣く泣くその亡骸を土に埋めましたが、恋人のすべてを失う事に耐えきれず、脛の骨を一本だけ残しました。そして彼はその骨で一本の笛を作り、ありし日の恋人の美しい姿を忍んでは、いつまでも吹き続けるのでした。

アンデスの夜、響きわたるその音色はえも云われず美しく、哀しく、近在の人々の心を震わせたのです……………。

■後記——プロデューサーより

本日は連休の最終日にもかかわらず、ようこそ本コンサートへお来し下さいました。

以前ベトナムへ行った折に、TV局で現地の歌伴組の伴奏をしていたバンドの楽器の半数以上が、改良された民族楽器であったのに大変驚かされた事があります。

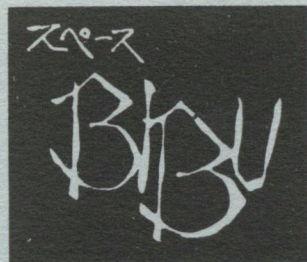
今回の演奏会では私達日本人には大変親しみ易いフォルクローレを通じて、加藤登紀子さんと日本音楽集団との出逢いがありました。今日は会場には、フォルクローレ、フォークソング、邦楽、それぞれのファンの方々が一堂に会している訳ですが、今後もこの様な機会を通じて何かのきっかけで、ベトナムや、カントリーのギターの様に、日本のフォークソングも和楽器で唄われる時が来るかも知れません。

最後に、私の不慣れなプロデュースにもかかわらず、今日の演奏会の為に措しめない協力をして下さった、加藤登紀子さん、青木誠さん、角田圭伊悟さん、ルナ楽器、雑誌「中南米音楽」そしてポリドール株式会社、その他多勢の方々に心より感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

三橋 貴風

美味しいお酒を……美味しい食事……
そして、美しい音楽を



12:00AM——2:00AM 第一・第三日曜定休

渋谷区渋谷2丁目22番7号 共栄ビル9F (ジロー渋谷南口店) TEL 03-407-6597

創業95年

日本音楽集団推薦

琴・三絃・十七絃・二十絃

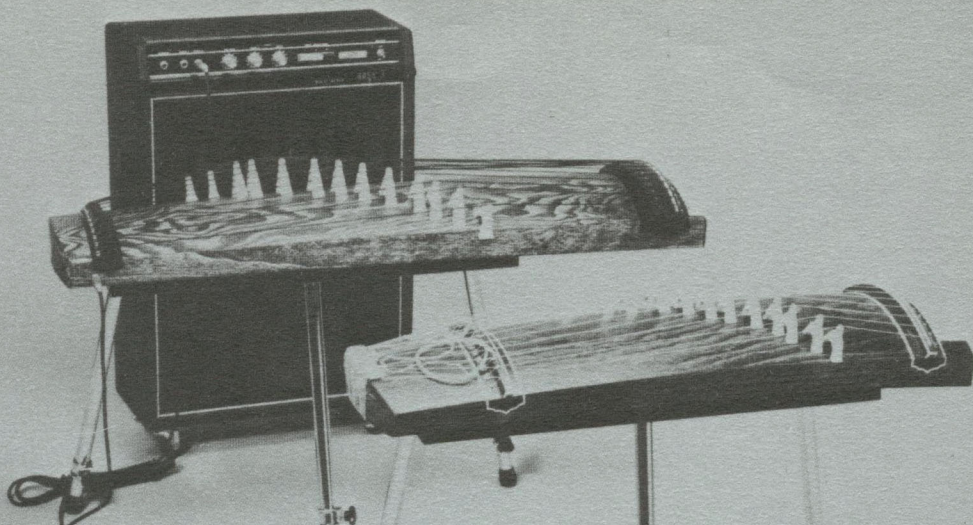
琴光堂和楽器店

—— 松本・諏訪・東京 ——

〒156 東京都世田谷区赤堤2-25-7

東京03(328)2802

横浜045(363)5448



琴の世界を広げる新しい楽器！

- ソプラノ 琴 立箏台・ハードケース付 ￥100,000
- アルト 琴 " " ￥120,000
- ベース 琴 " " ￥230,000
- ベース 三味線 " 未定
- ベース・アンプ " ￥890,000

琴四重奏用の古典からポピュラーまで楽譜あります。

ルナ楽器

〒107 東京都港区南青山1丁目17-14

TEL 03-402-7679代



「琴」にもヴィヴァルディがあります。



ヴィヴァルディ
琴 四季

KOTO VIVALDI THE FOUR SEASONS

〔演奏〕琴ニューアンサンブル〔指揮〕三石精一

●TA-60060 30cmLP ￥2,000 ●カセットテープ ZA-2031 ￥2,000

“これは一寸した驚きだ！”

“この曲の最後「冬」のソネットは「これが冬だ、冬もこんな楽しみがある」という一行で結ばれる。私は「これも琴だ、琴にもこんな楽しみがある」と今実感している。一方バロックのファンにも「これが〈四季〉だ〈四季〉にもこんな楽しみ方がある。」と声を立てる人が沢山いるに違いない。”

三木 稔

心への音楽
TOSHIBA EMI

お問合せは東芝EMI楽学芸教養部,03(585)1111へ

■ 日本音楽集団今年8月までの主な予定

- 3月4日(金) 横浜市教育委員会主催演奏会
横浜市教育文化ホール
- 3月24日(木) 室内楽演奏会(コンサートシリーズ№39)
青山タワーホール
- 4月より始まるNHK総合テレビの連続大型ドラマ「鳴門秘帖」(毎週金曜日午後8時より50分間)の音楽を三木稔が担当することになり、主にその演奏を集団が受け持つことになりました。乞うご期待!!
- 4月に予定していた室内楽演奏会は、ストによる混乱を避けるため7月に回わします。(日時未定)
- 5月16日(月) 第28回定期演奏会(コンサートシリーズ№41)
都市センターホール
- 6月17日(金) 伝統音楽演奏会(コンサートシリーズ№42) — 長唄・囃子その一
東邦生命ホール
- 8月1日~7日 第7回夏の合奏研究会
北軽井沢ミュージックホール

〈友の会会員募集〉

日本音楽集団では、集団の演奏会などの催しのお知らせや(B会員)、三回のコンサートを下記のように一括して割引値で予約できるA会員を設けております。御希望の方は下記の要領でお申し込み下さい。

A会員 ●コンサート・シリーズ3回公演の座席確保 ●それ以外の特別演奏会、新人演奏会、団員リサイタル、その他の企画のご案内 ●集団のレコード、楽譜出版のご案内 ●機関誌「邦楽現代」(定価200円一年2回発行)の無料配布

B会員 ●コンサート・シリーズ及びそれ以外の特別演奏会、新人演奏会、団員のリサイタル、その他の企画のご案内 ●集団のレコード、楽譜出版のご案内 ●機関誌「邦楽現代」の無料配布

会費 ●A会員 三公演(チケット代を含む)4,000円 ●B会員 一年2,000円

申し込み方法—郵便番号、住所、氏名、電話、おため先を書いたものを同封の上、所定の金額を添えて集団事務局に現金書留でお送り下さい。各演奏会場でも受付けています。

※今までと少しシステムが変わりました。入会は随時になり、A会員はコンサート・シリーズ3回分ごとに書きかえることになりました。

日本音楽集団事務局

東京都渋谷区神宮前6-16-14 小早川ビル2F
電話 03-409-5374

民謡が鮮やかに変身!! ロック、ボサノバ...ポップスのリズムにのせて自由奔放に流れる尺八の世界。新鋭、三橋貴風の大膽な演奏がハートに肉迫します。

尺八 三橋貴風
編曲 山屋清
ギター 杉本喜代志
ドラム 岡山和義 ほか

各1,000円



尺八山の詩
(FZ-7015)

小諸馬子唄・最上川船唄・木曾節・祖谷の粉ひき唄・ホーハイ節・会津磐梯山・津軽山唄・刈干切唄・相馬流れ山・田原坂・ひえつき節・南部牛追唄



尺八海の詩
(FZ-7016)

江差追分・大島節・佐渡おけさ・ソーラン節・磯浜盆唄・貝殻節・串本節・磯節・斎太郎節・金比羅船々・十三の砂山・谷茶前



尺八里の詩
(FZ-7017)

花笠音頭・相馬盆唄・真室川音頭・よさこい節・郡上節・かわさき安里屋ユンタ・秋田おぼこ・おてもやん・五木の子守唄・八木節・北海盆唄・黒田節

